# 山田みやこの活動報告

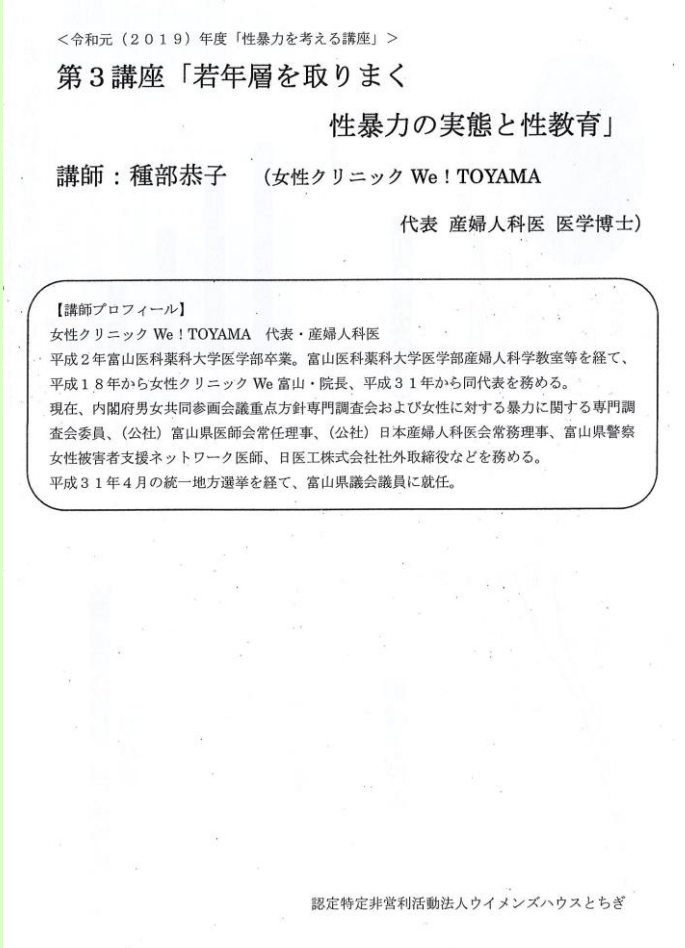
**令和元年8月26日（月）**

## 2019年度性暴力を考える講座 第3講座
## 「若年層を取りまく性暴力の実態と性教育」

講師　産婦人科医 富山県議会議員 種部 恭子氏

10歳代の人工妊娠中絶率は1995年から2002年にかけて急上昇。携帯電話が普及し、女子高生の商品化が起こり始めたころである。大都市に限った問題ではなく、地方都市でも大人による性的搾取が増えた。「JKビジネス」のエスカレートはその後も続いていて、10歳代の妊娠は健康な性的発達に伴う結果ではなく、性的搾取や性暴力によるもの。相手は教師や家族など顔見知りが多く、重い背景を抱えている。一見なにも問題がないように見える家庭でも、DVがあったり母親の自己表現の代用として利用され、自分の意思や存在が否定されて親の支配により居場所を失っているケースが増えている。生きづらい家庭から逃れるため、愛情欲求や依存欲求の未充足の結果、ネット上での出会いとぬくもりを求め、「＃さみしい＃死にたい」などのSNSにつながる。

若年の予期せぬ妊娠の場合、誰にも相談できず早期に医療に繋がらず、出産・虐待死に至っている。望んで妊娠に至ったわけではなく、遺棄した母は被害者であり社会システムの欠陥と捉えるべきである。また、元々親になる準備ができていないため、虐待や育児放棄に至るリスクが高い。経済的にも精神的にも追いつめられると、支援と見せかけて支配する男性も多く、再度のDV被害や売春強要などの搾取を受け、子どもは同居男性から虐待を受けたり、女性自身も生きのびるため暴力を振るう男性に同調し、一緒に我が子を虐待する母となってしまう。虐待の加害者の多くの母親は最初の搾取や、女性の賃金格差の被害者でもある。



＜令和元（２０１９）年度「性暴力を考える講座」＞

第３講座「若年層を取りまく
性暴力の実態と性教育」

講師：種部恭子　（女性クリニック We！TOYAMA
代表 産婦人科医 医学博士）

【講師プロフィール】
女性クリニック We！TOYAMA　代表・産婦人科医
平成２年富山医科薬科大学医学部卒業。富山医科薬科大学医学部産婦人科学教室等を経て、
平成１８年から女性クリニック We 富山・院長、平成３１年から同代表を務める。
現在、内閣府男女共同参画会議重点方針専門調査会および女性に対する暴力に関する専門調査会委員、（公社）富山県医師会常任理事、（公社）日本産婦人科医会常務理事、富山県警察女性被害者支援ネットワーク医師、日医工株式会社社外取締役などを務める。
平成３１年４月の統一地方選挙を経て、富山県議会議員に就任。

認定特定非営利活動法人ウイメンズハウスとちぎ

女性に対する暴力・貧困・妊娠の連鎖について、その場しのぎの切り口では世代間連鎖を止めることができない。包括的アプローチが必要。出産した10歳代の女性にこそ教育が必要であり、性産業以外の就労のため高卒資格を持つことに大きな意味がある。しかし、自主退学、学校の勧めで退学という事例がある。2018年3月文部科学省から妊娠退学を回避し就学継続を支援する旨の通達が初めて出された。

日本の性の問題に目を背けてきた教育においては画期的なことである。合わせて貧困や女性の労働条件の改善など女性を取りまく社会的要因のアプローチが求められる。しかし女性が声をあげることはまだ容易ではなく、社会の仕組みも未だ不利である。女性の環境を改善するキーパーソンとして、女性を診る医療者がそれぞれの切り口から社会に働きかけることが必要である。

※産婦人科の女性医師としての視点から心強い提案をしていただいた。社会的な多様なポストに女性が就くことで女性の抱える生きづらさの解決が一歩一歩進むものと実感した。

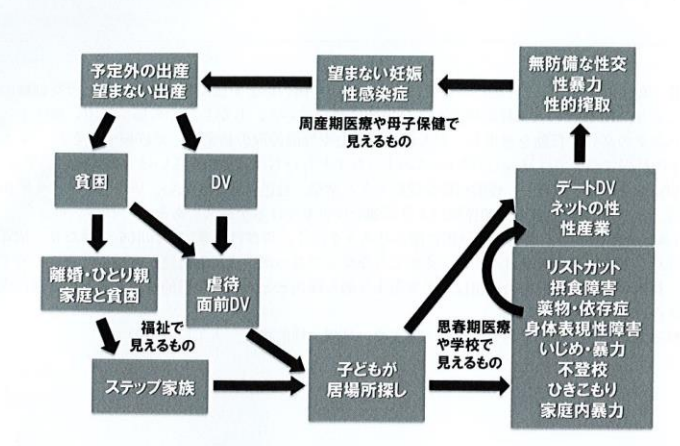


Fig. 10. 望まない妊娠・貧困・暴力の世代間連鎖